Vol. VIII, Pt. 4, 1957

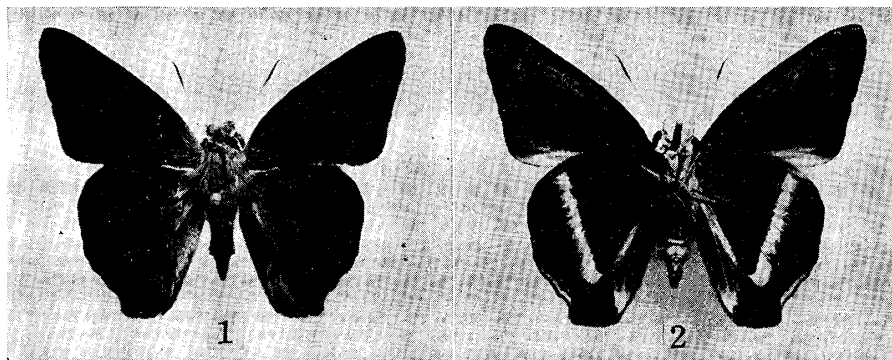
蝶と蛾 TYÔ TO GA

(Transactions of the Lepidopterological Society of Japan)

日本のフアウナに新しく加えられるセセリチヨウ科の1種について

白水　隆[1)]

Hasora chromus inermis ELWES et EDWARDS, an unrecorded Hesperiid butterfly from Japan

By TAKASHI SHIRÔZU

Figs. 1 & 2. *Hasora chromus inermis* ELWES et EDWARDS, ♂. Okinoerabu Island, Amami Group, Japan, 15. vii. 1957 ex pupa (reared from egg by Mr. M. UMEBAYASHI).

目下，奄美群島の沖永良部島に駐在中の梅林満智也氏（門司植物防疫所）によって日本領土より未記録の大形のセセリチョウ科の1種が同島より発見されたので取敢えずここに報告したい．この小文を綴るにあたり資料を提供された梅林氏の好意に謝意を表すると共に，同氏の功績を特記したい．また日頃御懇切な御指導を頂く九大農学部江崎悌三，安松京三の両博士に対しても厚く感謝の意を表する．

Hasora chromus inermis ELWES et EDWARDS
オキナワビロゥドセセリ (Figs. 1–2, ♂; Fig. 3, pupal case)

本種の琉球，台湾方面における分布，近似種タイワンビロゥドセセリ *Hasora taminatus vairacana* FRUHSTORFER との区別その他については私が以前に精論したことがある（台湾及び琉球産ビロウドセセリ属の近似の二種に就いて，Zephyrus, **9** (4): 245–255, pl. 21, 1947）．従来台湾では紅頭嶼と南端部のクラルからのみ知られ，琉球では波照間島，石垣島，久米島，沖縄本島が既知産地で，沖縄本島が分布の北限とされていたが，今回の発見で沖永良部島まで分布の北限が伸び新しく日本の fauna に加えられることになったのである．

本種の形態の概要を沖永良部島産の材料によって参考までに略記すれば次の通りである．

♂．翅表黒褐色，無紋．前翅中室下方に斜向する性条があるが新鮮な標本ではやや認め難い．体の背面，前翅基部，後翅基半より肛角部にかけて生ずる毛は緑灰色，見る方向によってやゝ緑色味の目立つことがある．裏面の地色は灰褐色，前翅翅底部より中央にかけてやゝ暗色，内縁部は灰白色．前翅外縁に近く淡色帯を有するが極

1）福岡市大坪町　九州大学教養部生物学教室

めて弱く不明瞭，新鮮な標本において僅かに認めうる程度である．後翅はその中央部よりやゝ外縁に近く直線状をなす顕著な白帯があり，この白帯の後端は肛角に達せず第1b脈において V字状をなして曲り第1b脈に沿うて直線的に翅底に向うが，屈曲部より翅底間においては白色鱗がやゝ弱い．尾状突起を含む肛角部は広く黒色を呈し，この黒色斑の内縁側に白色部，また尾状突起の前部より外縁に沿うて前縁角に向う細白線があるが，この細白線は第1b及び第2室においてやゝ顕著，それより前方に向って次第に不瞭明となり漸次消失する．

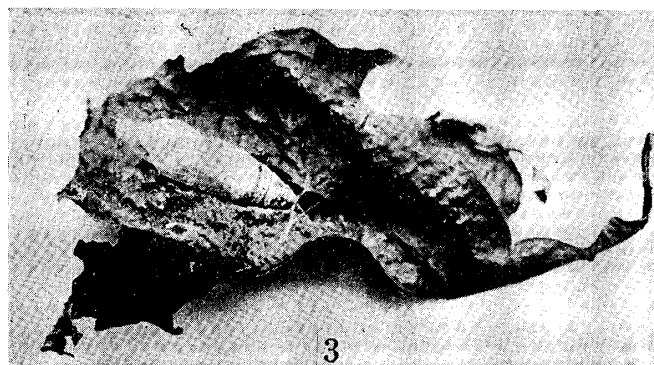



Fig. 3. A pupal case of *Hasora chromus inermis* Elwes et Edwards, ♂, from Okinoerabu Island.

♀．前翅表に性条を欠き，また前翅第2，3室に小黄白斑をそなえるほか，色彩斑紋は♂と殆んど同様．

所検標本：沖永良部島，1♀(野外採品，23, vi. 1957)；1♂(飼育品，15, vii. 1957, 九州福岡市にて羽化)．梅林満智也氏採集及び飼育．

沖永良部島における食草：クロヨナ *Pongamia glabra* Ventenat (マメ科).

梅林氏は1957年4月に初めて本種を沖永良部島で採集し，後翅裏面に白帯のあるアオバセセリ大のセセリチョウを捕えた旨を私に報告してきた．梅林氏の記述と分布上の知識から私は恐らくオキナワビロウドセセリであろうと推定し，石垣島で知られたその食草マメ科のクロヨナ（白水前出報文，p. 250 参照）を調べて幼虫や蛹を探索してもらうように同氏に依頼した．間もなく氏の努力により本種がクロヨナの新芽に産卵することが確められ，幼虫も発見された．梅林氏の観察によれば幼虫は1令の間は新芽を捲いてその中にひそみ葉を食べているが，2令以後は葉柄あるいは若枝中に喰入り糞のみを外部に出すと言う．このような習性は日本産のセセリチョウでは全く知られていない所で興味深い．梅林氏によって沖永良部島で飼育された本種の生蛹2頭が7月13日に私の手許に到着したが，その中の1頭は福岡市内の私の研究室において7月15日に羽化した．写真に示した♂の標本及び脱皮殻はこの材料に基く．他の1頭は蛹の標本としたため羽化の記録はとれなかったが，蛹の着色程度から判断して7月15日羽化のものより1～2日おくれて羽化すべきものと判断された．これらの2頭の生蛹は梅林氏のデータによれば1957年6月23日産卵，7月8日蛹化とあり，また別に同氏の手許に残された同じ7月8日蛹化の2個体は沖永良部島において7月16日に両者共に羽化した旨，後日通知を受けた．以上の飼育記録から卵期＋幼虫期は12日，蛹期7～8日，産卵から羽化までの所要日数19～20日という本種1世代所要日数の1例が判明したわけで，その迅速な経過より見て沖永良部島などの高温地では本種は年間にかなり多くの世代を繰返すものと思われる．

本種の食草クロヨナは木本のマメ科植物で，九大理学部細川隆英教授によれば奄美大島にも多く，さらに北上して屋久島の低地帯にも生育すると言う．奄美大島では同島名瀬の森田忠義氏よりすでに本種と思われるものの採集報告を受けているので，いづれ沖永良部島以北の島々から次々と見出されるであろう．屋久島の海岸地帯も食草クロヨナの生育地に注意すれば発見の希望が持てるのではないかと思う．

Résumé

The following Hesperiid butterfly has not been recorded from Japan.

Hasora chromus inermis Elwes et Edwards, 1897

1897 *Hasora inermis* Elwes et Edwards, Trans. Zool. Soc. London, **14** (4): 301, pls. 20, 27.

1947 *Hasora chromus inermis* Shirôzu, Zephyrus, **9** (4): 245–255, pl. 21.

Habitat: Okinoerabu Island, the Amami Group, Japan.

Food plant in Okinoerabu Island: *Pongamia glabra* Ventenat (Leguminosae).

Through the courtesy of Mr. Machiya Umebayashi I could examine one female specimen of this species collected by him on June 23, 1957, and rear one male specimen (figs. 1–2) from the pupa which was sent to my laboratory from him. According to his information this pupa was reared by him from the egg oviposited on June 23, 1957, and the date of pupation was July 8 of the same year.